



(写真) Portaforio "コロンビア系ゲリラのコルタン密売が増加"

コルトンの密売レポート

株式会社ベネインベストメント
松浦 健太郎

米 国の経済制裁を受けて、ベネズエラの石油産業は壊滅的な打撃を受けた。

17年7月時点で約200万バレルだった産油量は、17年8月に制裁を受けたことで4年が経過した現在は日量50万バレル前後で推移している。

そんな中、別の収入源として鉱物の重要性が高まっている。ただし、現在は制裁で通常の国際取引はできないため密売など違法取引を助長する懸念がある。本稿では、国境で行われる鉱物レアメタル「コルタン」の密売状況について確認したい。

国境周辺でコルタン密売が横行

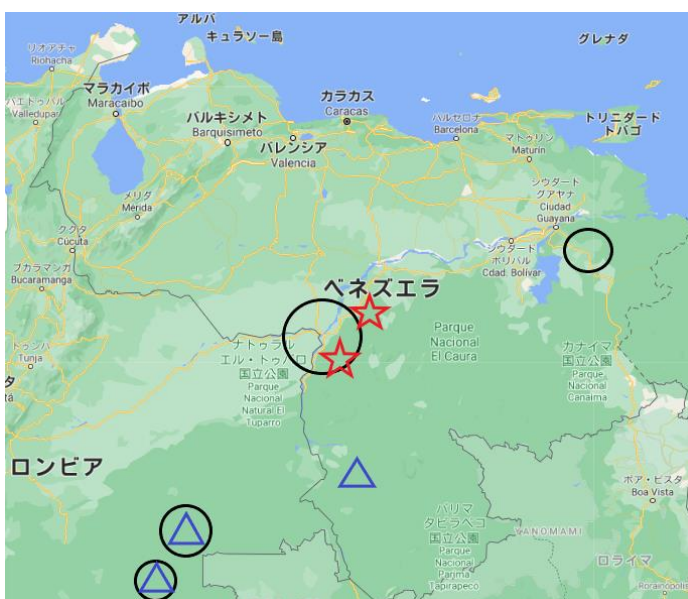
ベネズエラは原油以外にも GOLD、ダイヤモンド、ボーキサイト、鉄鉱石など鉱物資源に恵まれた国だ。

正式な調査は行われていないが、携帯電話やノートパソコンなど電化製品のコンデンサーに用いられる「コルタン」と呼ばれるレアメタルもベネズエラには多く埋蔵されていると言われている。

このコルタンは、コロンビア系ゲリラ（「コロンビア革命軍（FARC）残党」「国民解放戦線（ELN）」）がベネズエラで違法採掘を行っていると言われている。

また、確実な証拠は存在しないが、マドゥロ政権も彼らからキックバックを受け取ることを条件にほう助していると噂されている。

なお、コロンビア軍、コロンビア検察の調べでは、コロンビアとベネズエラの国境には下図の通り、コルタン鉱山があり、コロンビア系ゲリラが潜伏しているという。



(写真) InsightCrime、GoogleMap

左上の図では全体像が見えにくいので、下図ではベネズエラ全体 MAP からコルトンの違法採掘がおこなわれている場所、コロンビア系ゲリラの潜伏カ所を示している。

黒い○で囲まれているのが「コルタンが違法採掘されている鉱山」。

赤い☆の箇所が「FARC 残党の潜伏箇所」

青い△の箇所が「ELN の潜伏カ所」

だという。

つまり、コルタン鉱山はベネズエラ側だけではなく、コロンビア側にもあるようだ。

また、この地域はコロンビアだけでなく、ブラジルにも近く、コロンビア・ブラジル・ベネズエラのコルタンが密売されているということだろう。

ベネズエラのコルタン採掘量は？

次にベネズエラがどの程度コルタンを採掘しているのか確認されている情報を基に説明したいが、その前に世界的にコルタンがどの程度、採掘されているのかについて、確認したい。

2017年、世界で採掘されたコルトンの合計量は約1,270MT(メトリック・トン)。

国別で最も採掘量が多いのはルワンダで390MT。ルワンダだけで世界の採掘量の30%を占める。

次に多いのはコンゴ共和国で370MT、次いでナイジェリアが190MT、ブラジルが100MT、中国が95MT、エチオピアが60MTと続く。

上記以外の国のコルタン採掘量は合計で約6.5 MTとなる。

ベネズエラ政府は鉱物取引関連の統計の公表を停止しており、同国のコルタン採掘量は不明。

また、ベネズエラで採掘されるコルタンの多くは密売とされており、正確な情報をつかむことは不可能だろう。

ただし、2018年5月にイタリアでコルタン5 MTが押収された。このコルタンはコロンビアのカルタヘナからイタリアのトリエステに到着したことで摘発された。

このコルタンはベネズエラ産とされている。

摘発されたのが氷山の一角と考えれば、年間で5 MT以上の採掘量はありそうだ。

なお、コルタン5 MTは当時の市場価格で言うと200万ドルの価値があったが、密売時の売値は33万ドルと極めて破格の値段だったという。

この167万ドルの差額はイタリアの買い手がリスクを引き受けたディスカウント分なのか、差額を政府の裏金にしているのかなど様々な可能性があるがその理由は分かっていない。

また、2021年に入りコロンビア警察は3度、コルタンを押収している。

21年3月、コロンビア警察はGuaviareでコルタン5 MTを摘発。コロンビア検察によると、密売者はFARC残党だという。

それから4か月後の21年7月にベネズエラと国境を接するVichada県で1.2 MTのコルタン密売を摘発。コロンビア検察によると、密売者はELNの構成員だったという。

更に直近の8月15日にはGuaviareで1.5 MTのコルタンを押収した。

つまり、21年8月までに7.7 MTトンの密売を摘発したことになる。

2ページ目の図の通り、コルタンの鉱山はコロンビア側にも存在する。その意味で、摘発されたコルタンの全てがベネズエラで採掘されたものとは限らないが、国境周辺で相当量のコルタンが違法に採掘されていると言えそうだ。

ベネズエラ側の対応

現在コルタン採掘でベネズエラ政府は民間企業との合弁会社「Minera Ecosocialista Parguaza」という会社を設立している。

この会社は国営公社「Corporacion Venezuelana de Minería (CVM)」と民間企業「Faaz Corporation」の合弁会社。

コルタンが埋蔵されているとされるボリバル州プエルト・アジャクチョ北部「Juana La Avanzadora」第1ブロック(102.01 km²)の採掘を行っている。

「Faaz Corporation」は2016年7月29日に登記された会社で、マドゥロ政権と合弁会社を組む7日前に設立されたという。

この会社の社長は Luisa Herminia Alcalá Otero (70歳) という人物で、以前 PDVSA で働いていた。

この他にコルタン採掘を行う合弁会社で「Minea Metales del Sur」という会社がある。

この会社は国営公社「CVM」と「Supercal Ltd」との合弁会社「Oro Azul」とカナダの「Energold Mineral」が共同で設立した合弁会社。

ボリバル州セデーニョ市鉱区 8159ヘクタールを20年間採掘する協定を結んでいる。

しかし、「InfoAmazonia」という情報サイトは、これらの合弁会社は一部の地域の採掘をコロンビア系マフィアに委託しており、ベネズエラ軍が彼らの活動を支援していると指摘している。

そして、マフィアがベネズエラで違法に採掘したコルタンは「TradeBoss.com」など通販サイトを介して売られるという。同サイトに書かれている条件によると、「コロンビア港から指定の港まで商品を運ぶ」としている。

制裁により、正規の販売手段がないことは違法取引を助長させる。また、正式な情報が出せないため、統計的な情報も隠されてしまう。違法取引はリスク分のディスカウントや無駄な送金コスト、ロジスティクスコストもかかるため、余計な費用もかかる。

「制裁でマドゥロ政権が違法な取引が出来なくなった」と制裁の成果を指摘する声もあるが、ベネズエラにとって望ましいものではないのが実態だろう。

以上